

## 再度、みなさんの祈りと力を結集ください

「わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず。」

(Ⅱコリント4章8節)

関東教区「東日本大地震」被災救援支援委員会委員長 疋田國磨呂

この度の「東日本大地震」で被災された多くの方々に、また関東教区内で被災された諸教会の上に、神からの憐れみと慰めをお祈りいたします。

22日(火)に開催された臨時常任常置委員会で、関東教区「東日本大地震」被災救援支援委員会を設立致しました。これは5月末の第61回関東教区総会までの暫定的な設置であります。今回の「東日本大地震」は、北海教区、奥羽教区、東北教区、関東教区、東京教区と5教区にわたる広範囲に被害をもたらしています。地震、津波、更に福島原発事故に伴う惨事であります。関東地域にも多くの避難の方々が身を寄せています。新潟県「中越沖地震・中越沖地震」の被災救援のために全国の諸教会から祈りをいただいて、被災教会の復興に当たりました。再度、被災地域と被災教会のために皆さんの祈りと力の結集をお願いいたします。

### 東日本大地震被災救援支援委員会設置

書記 小池正造

3月11日に起きた東日本大地震で被災をした方々、地震により起きた東京電力福島第一原発、第二原発事故により避難をされている方々、計画停電の中で不自由な生活を強いられている方々に、主イエスの慰めのあることを切にお祈りいたします。関東教区では、3月22日に臨時常任常置委員会を計画停電の中、教区事務所で開催をし、東日本大地震被災救援支援委員会を設置いたしました。委員長に疋田教区議長、統括主任に飯塚副議長、書記に小池書記、平山宣教部委員長、22日時点での各地区委員長、地区長で組織しました。

3月15日(火)に茨城地区被災教会(水戸教会、水戸中央教会、日立教会)を、25日(金)には、栃木地区被災教会・関係学校(西那須野教会、アジア学院、那須塩原伝道所、宇都宮上町教会、宇都宮教会、四條町教会)をお訪ねし、教職、信徒の安否を尋ね、会堂の被災状況を確認いたしました。

被災救援支援委員会は、被災教会の歩みにより沿いつつ、教区内諸教会・伝道所に募金の呼びかけ、情報発信を続けてゆきます。

### 今後の活動予定

統括主任 飯塚拓也

「今、被災したところはどうなっているのか。そこで、何が求められているのか。そして、私たちに何ができるのだろうか」が、委員会の役割と思います。具体的には、①関東教区内の被災状況を把握して、その状況を発信すること。②奥羽教区、東北教区と連携し、その求めに応じた被災支援活動を関東教区全体で取り組めるように進めること。③関東教区内で求められる被災支援活動を関東教区全体に呼びかけると共に、教区内の被災教会への支援(信徒宅の被害や建物被害への支援を含む)に取り組むこと。

震災発生の翌日より、関東教区内の被災状況の把握や東北・奥羽教区の被災状況の把握のために、委員が手分けして現地を回り、そして、そこから求められる支援活動を考えコーディネートにあたっています。松下充孝氏(大宮教会)のご協力によって、宇都宮教会、宇都宮上町教会、西那須野教会、アジア学院、四條町教会、益子教会、水戸中央教会、日立教会、竜ヶ崎幼稚園の建物診断が始まっています。

教会や教区が必要としている支援に応答することが、私たちの支援の取り組みです。寄せられた救援支援の要請に、教区が一つとなって共に取り組んでいきましょう。

**地** 震発生直後、新潟地区被災支援担当は可能な限り早期にお見舞いと情報収集のため被災地入りすることを決定しました。時を同じくして、兵庫教区被災者生活支援長田センターの柴田主事が同行する旨申し出られ、14日月曜日、新潟地区から新井、西川（教区社会委員長）、長田センターから柴田主事と渡辺神学生（高の原教会）の、合わせて4名で、積めるだけの物資を携えて仙台市にある東北教区センターエマオに向かいました。

エマオでは、すでに支援センター立ち上げが検討されており、我々にはこれまでの支援活動での経験を分かち合っただけの依頼があり、支援センター立ち上げのお手伝いをさせていただくことになりました。東北教区センターは学生センターを併設しており、やる気のあるスタッフや学生ボランティアが多数いらっしゃり、力強い支援体制ができあがることを予感させました。

支援物資などの申し出が多数あるものの、被災地へ搬入する術がなく困っていたところ、新潟教会が物資の中継地点になってくださるといふ申し出があり、感謝してこれを受け、新潟地区がエマオまでの輸送に協力することにいたしました。物資輸送は3月26日時点で、延べ7回行われています。現在は宅配便で被災地へ直接物資を送ることができるようになったので、このボランティアは終了しました。

埼玉地区では、古着のフリーマーケットを行う準備を始めてくださっています。古着は支援物資としては一番扱いにくい品物で、ほとんどの場合活用されません。しかし、フリーマーケットのよ



うに、こちら側で全て準備を整え、現地でのセッティングや売り子も支援者側が責任を持って行えば、有効な支援になりうると想像しています。併せて炊き出しや模擬店を出店できれば、ちょっとしたイベントとして楽しんでもらえるかもしれないと思い、検討中です。

被災地の求めに応じつつ、想像力を豊かにしながら、これから始まる長い支援活動を展開したいと思っています。ご加禱ご協力をお願いいたします。

報告者 十日町教会牧師 新井 純

## 茨城地区においてできるボランティア

報告者 加藤久幸  
3月11日（金）に発生した「東日本大震災」を受けて、各教会・伝道所が教会員の安否確認とできる救援活動に動き始めた。茨城地区も、12日（土）からの約1週間は、地区内の被害状況の確認、被害の大きかった教会・伝道所・関係施設の間安、救援物資の搬入などを、関東教区と連絡を取りつつ行った。この初期の各地区の状況確認と救援活動、奥羽・東北教区の状況と取り組み、教団の動きを踏まえて、関東教区は「東日本大震災」支援委員会を設置した。この委員会で話された支援活動の方針は、各々のところで自分たちが今できる支援活動に取り組む、委員会はその活動をバックアップしていくという内容であったと受けとめている。

茨城地区においても、各々が、第2段階の支援活動へと、動き始めている。「原発被害」も含め、茨城県内地域には避難者が入ってきている。つくば市では、茨城YMCAが、地震直後より、洞峰公園体育館や国際会議場の非難者に対して、ボランティア活動の統括およびその実施の責任を担っている。この活動は、各「社協」からの依頼によるが、竜ヶ崎幼稚園でも同様の依頼を受けているようである。また、大洗の避難所にいるベツレヘム教会関係者の支援は、水戸中央教会が継続して関わっている。さらに、日立教会では、被害の大きい北茨城被災地域の支援、（県・教区を超えて）隣接するいわき地域の諸教会の支援を検討している。その他、様々な動きと活動の情報が入ってきているが、茨城地区では、各々の支援活動を尊重し、その働きをサポートする態勢（情報・人・物）を、3月27日（日）開催の茨城総会で話し合いたいと考えている。祈りつつ、助け合う歩みに参与しましょう。